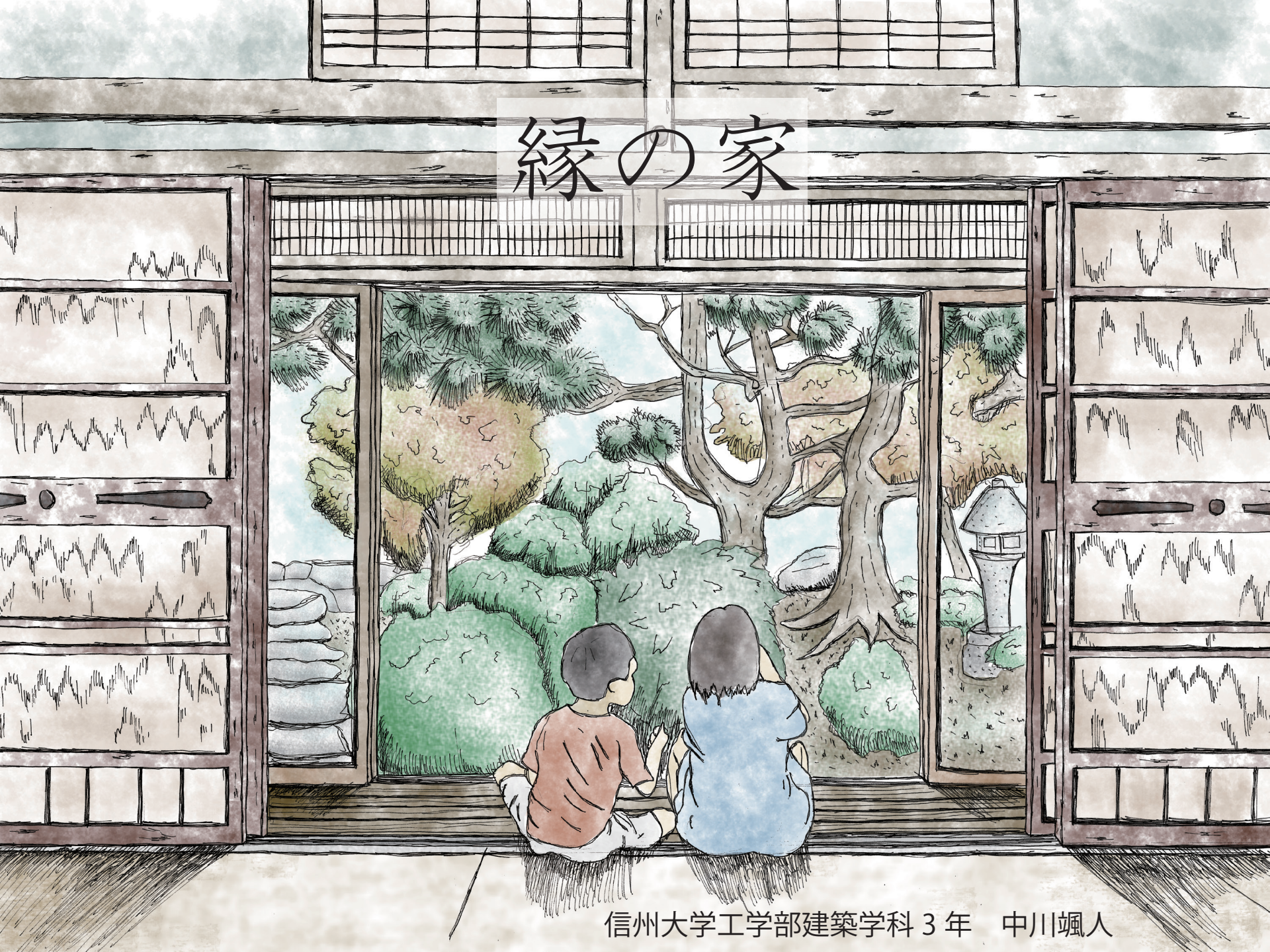
縁の家



信州大学工学部建築学科 3 年　中川颯人

01. 縁側という空間の存在

着想

日本の民家には縁側という空間があり、
それらは、通路としてだけでなく、ちょっとした接客や
憩いの場として使われてきた。
縁側は様々な用途を持ち、地域との接点でもあった。

▽

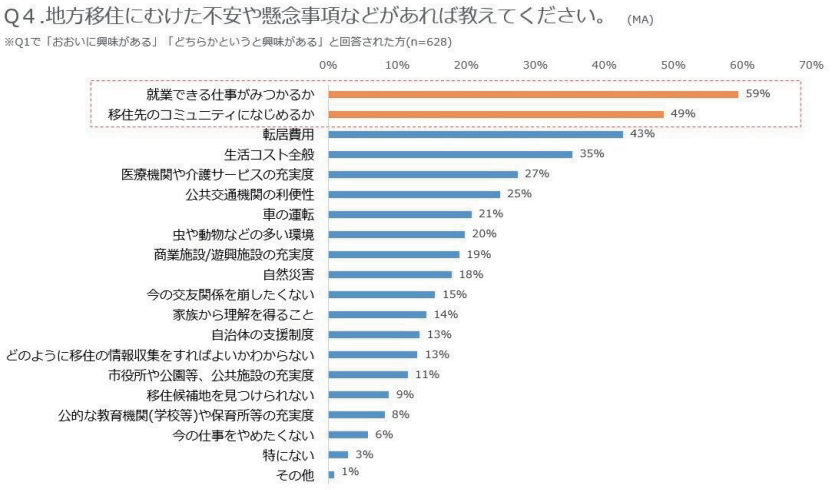
このような空間は現代住宅にはない民家特有の魅力であった。

02. コロナ禍における移住とその課題

コロナ禍において地方移住の動きが高まり、
須坂市も移住先の一つとなっている。

▽

- 働き口への不安
- 人間関係の不安



▽

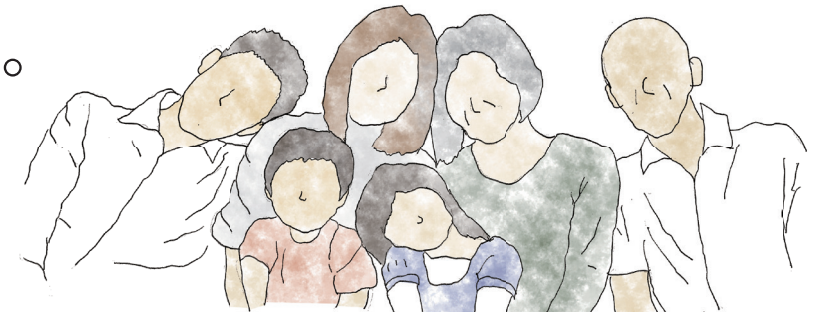
須坂市に一定期間住み込み、リモートワークを
行うのが良いのではないか。

03. 縁の家の提案

コロナ渦でＵターン移住した夫婦を含む３世代家族が
移住予定者のコワーキングスペース兼ドミトリーを経営する。

▽

それらと住居を縁側でつなぎ、須坂市と移住者を結ぶ
縁の家を提案する。

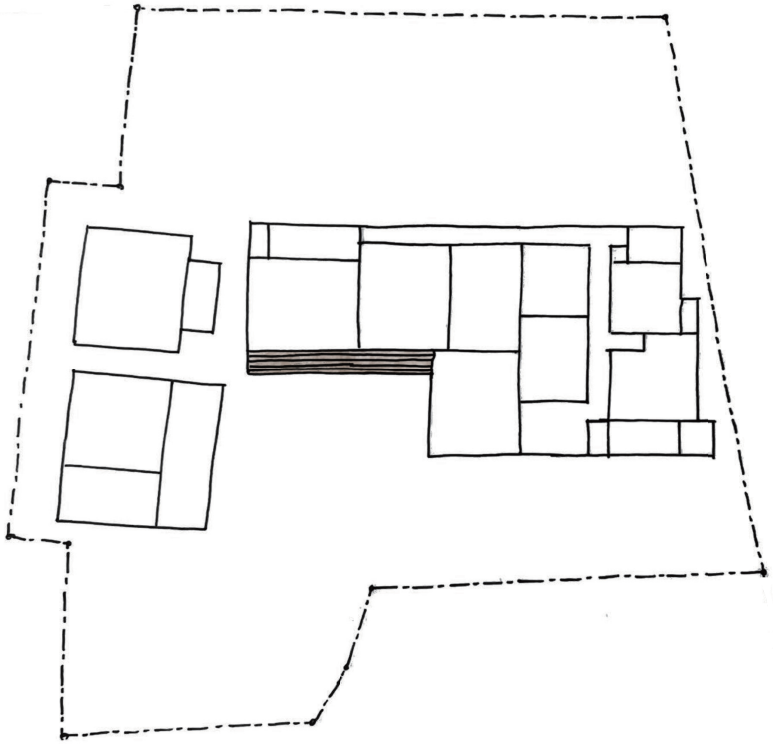


※ドミトリー…相部屋の宿泊施設、比較的宿泊が料金安い

04. 縁側を伸張する

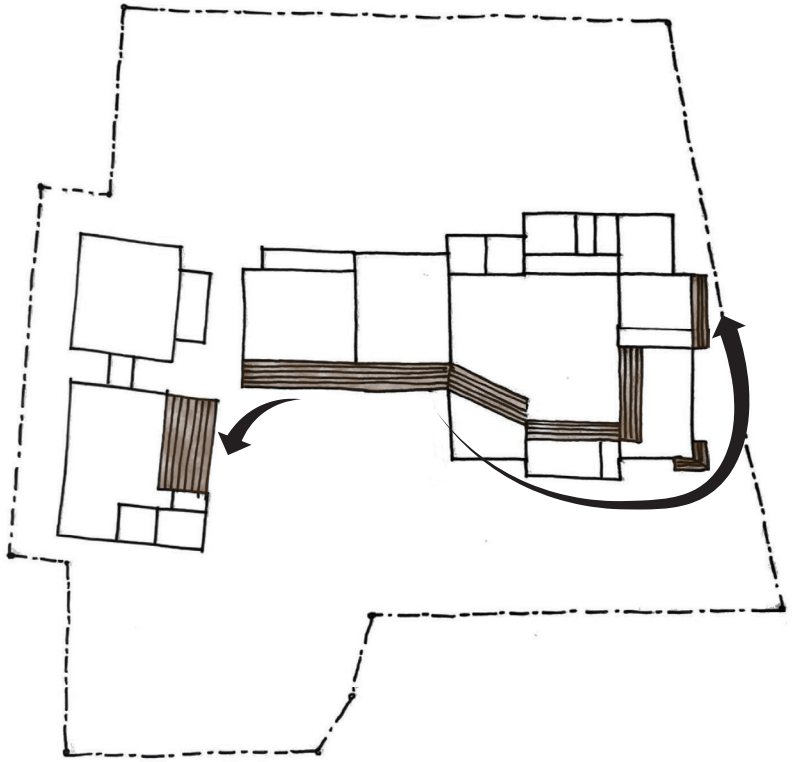
設計手法

再生前



縁側は一部にある

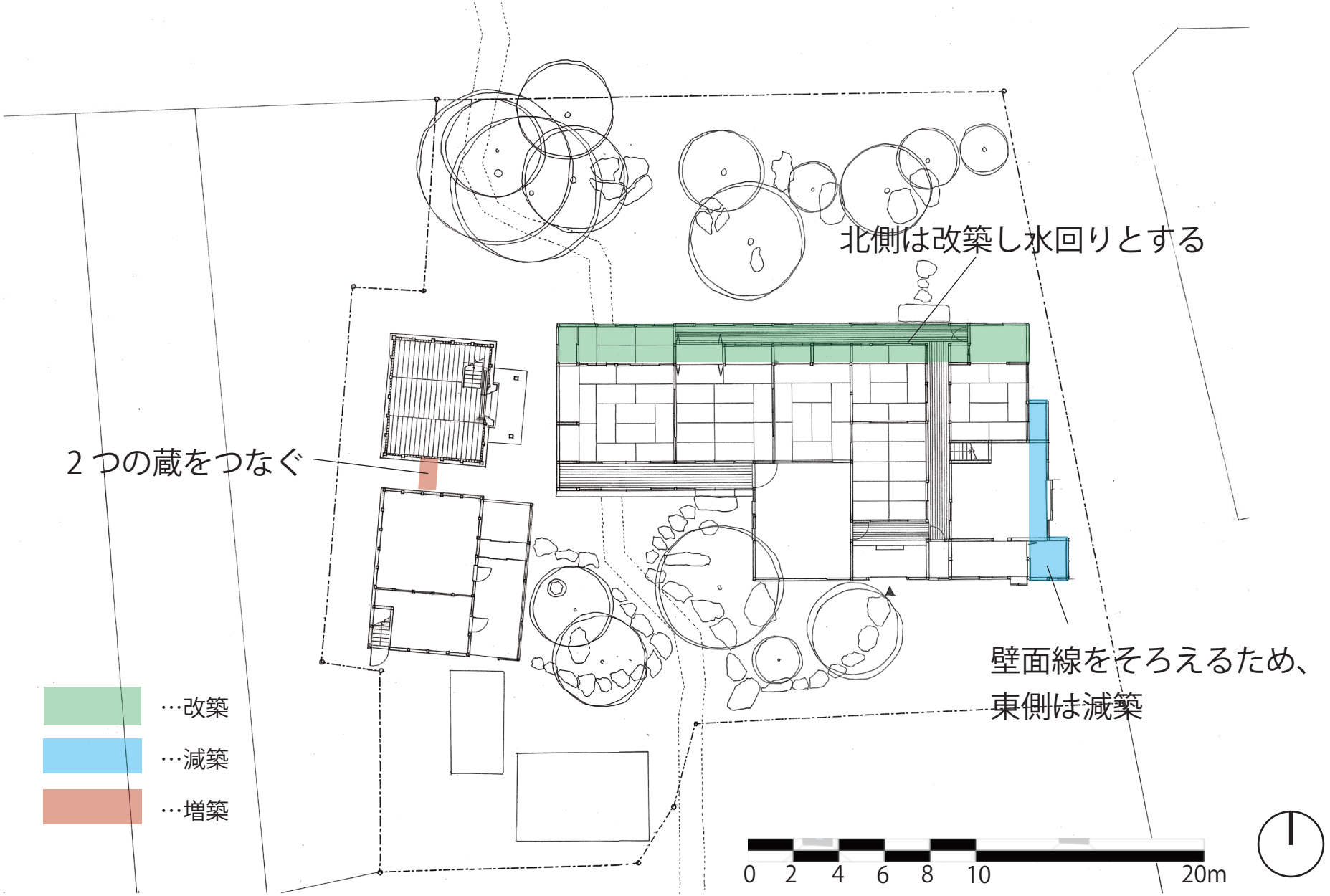
再生後



縁側を伸張し、
3 つの建物をつなぐ

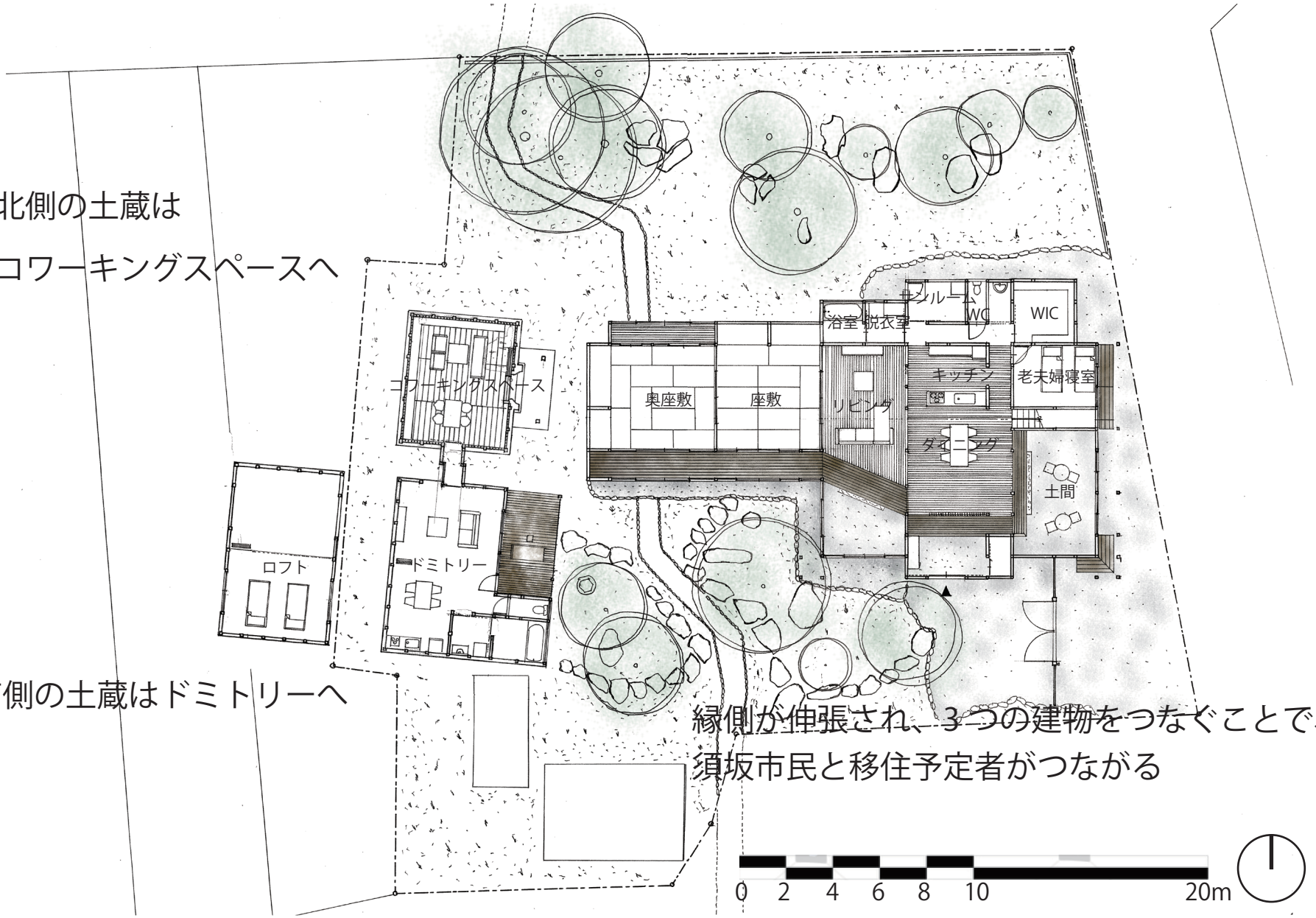
05. 増改築計画

既存平面図



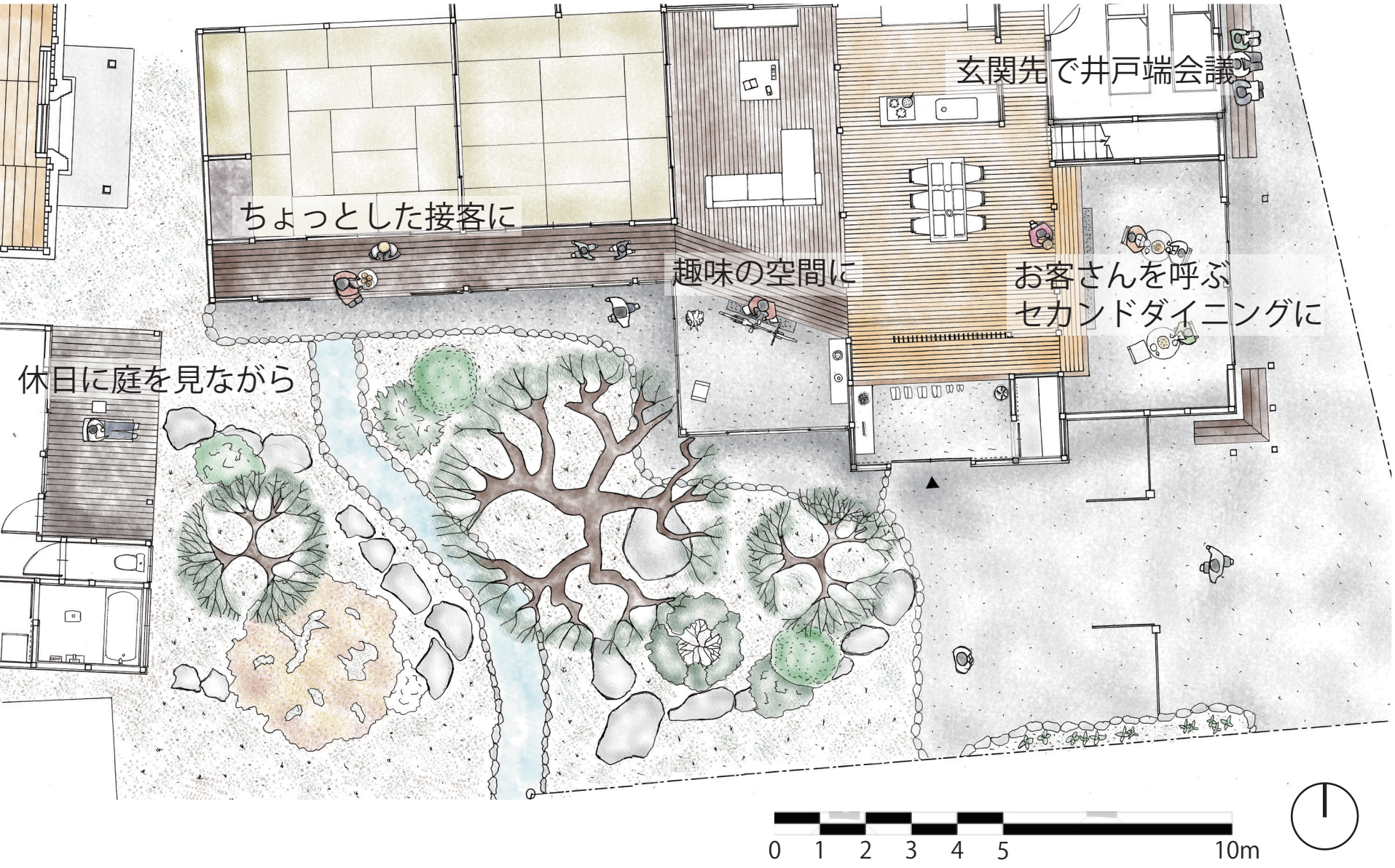
06. 縁の家の概要

平面図



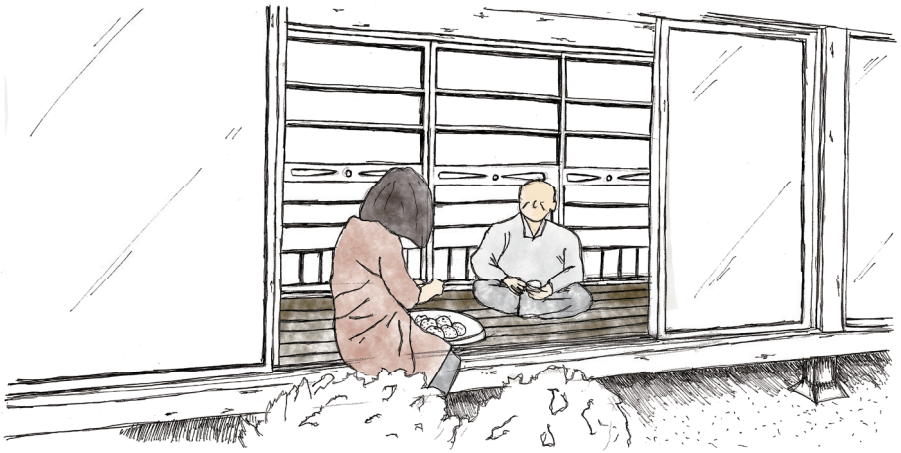
07. 縁側での様々な活動①

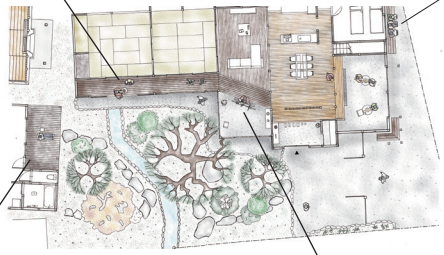
詳細平面図

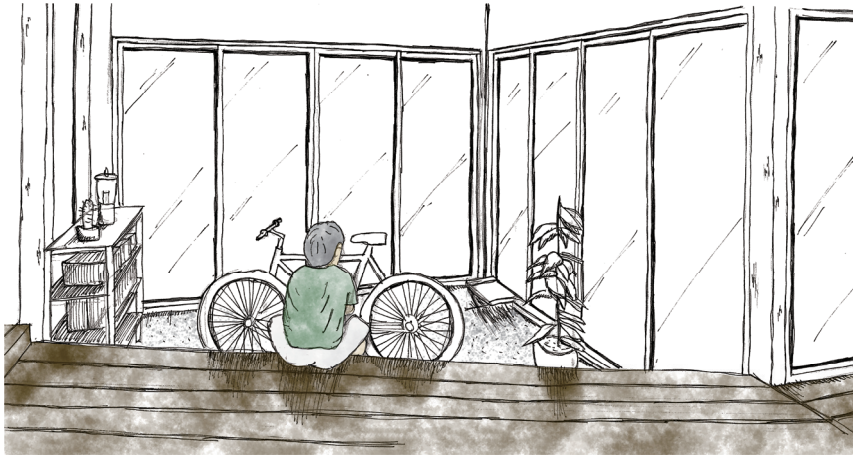


08. 縁側での様々な活動②

スケッチ



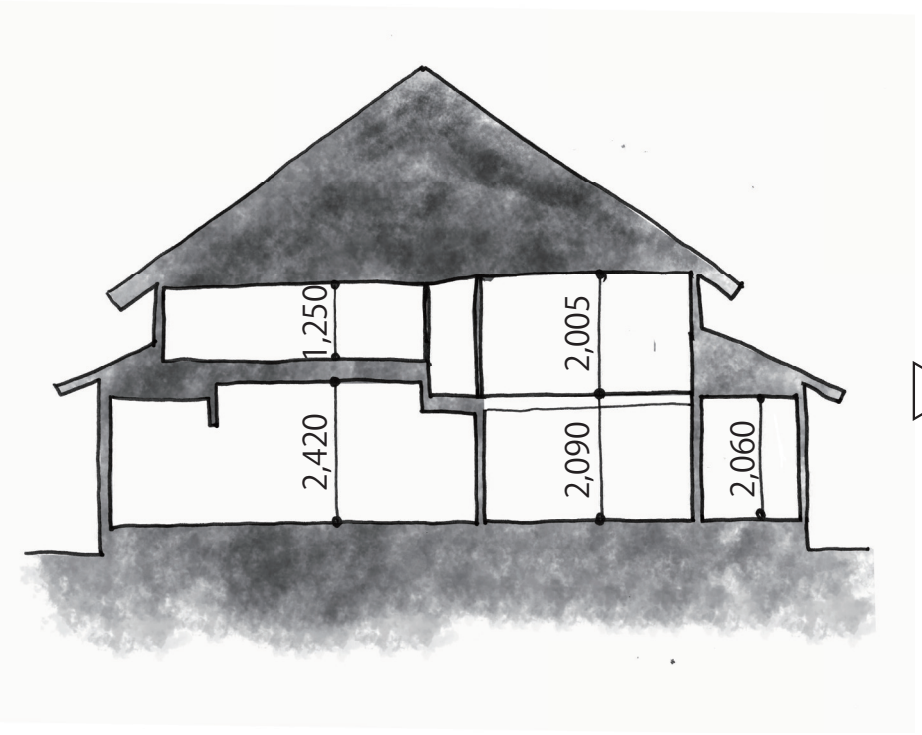




09. 住みやすい 2 階へ①

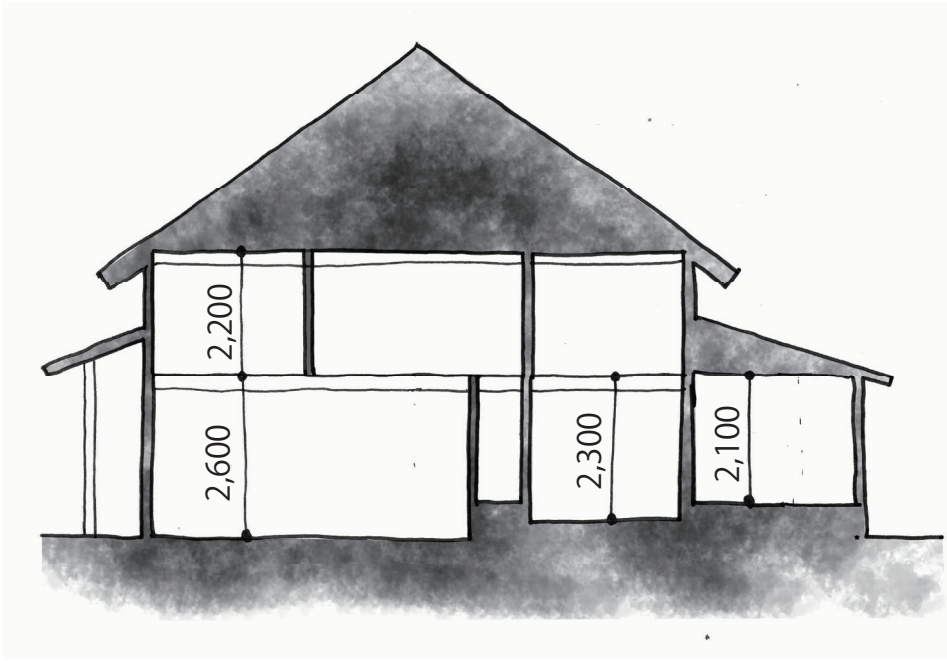
断面計画

再生前



不規則な増築により、
2 階が過ごしにくい空間だった

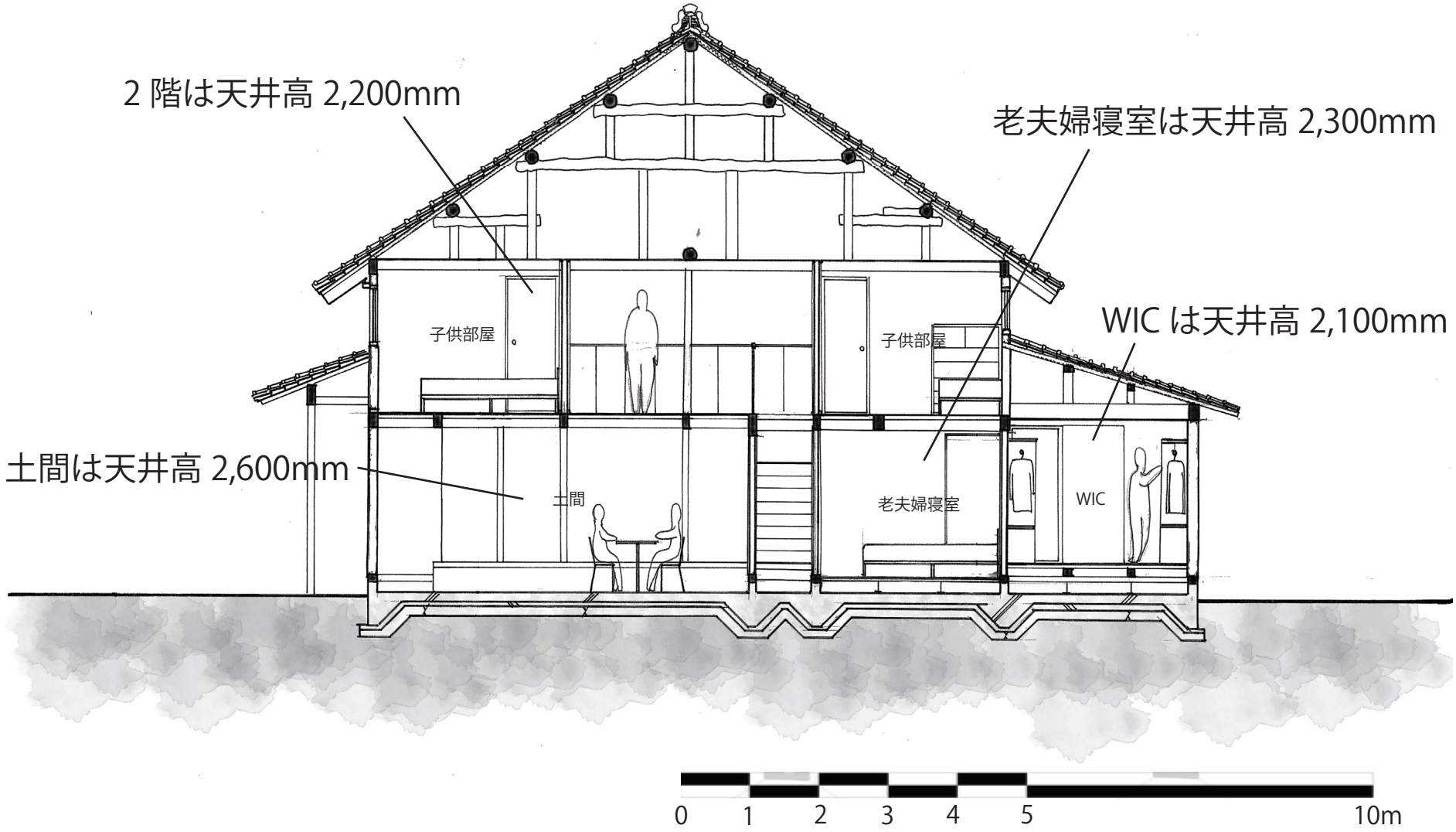
再生後



1 階を土間床、2 階を梁を見せた天井にし、
天井高を確保

10. 住みやすい２階へ②

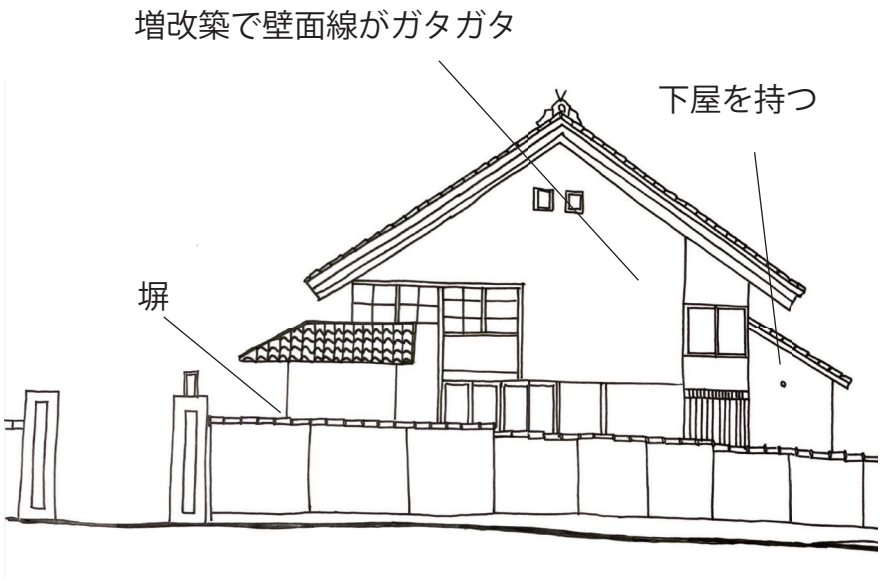
短手断面図



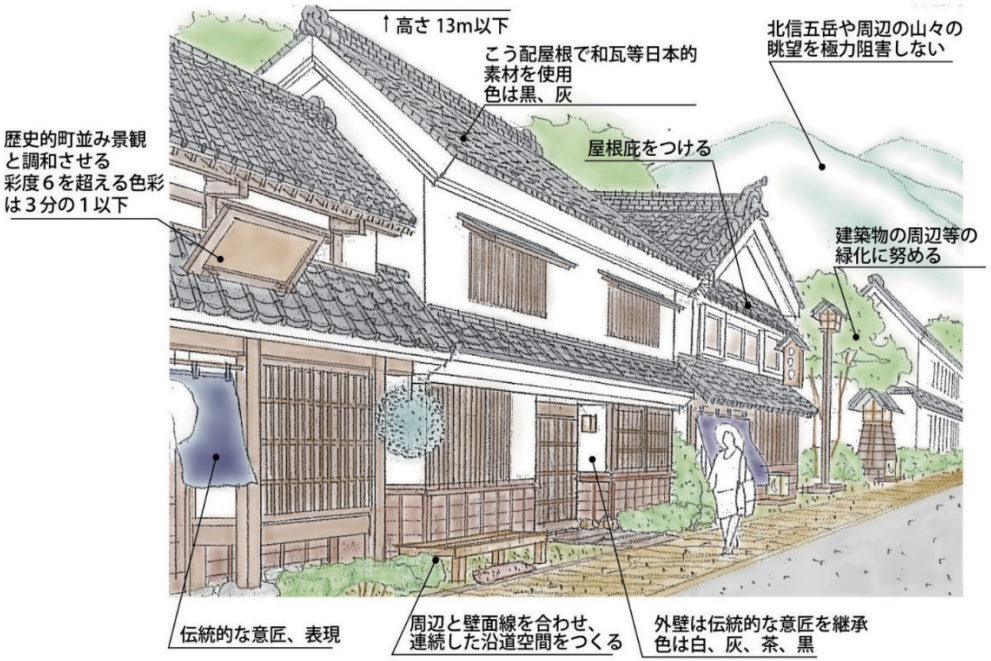
11. 旧越家と須坂の町並み

立面計画

旧越家住宅の特徴



須坂のまちの特徴
須坂市景観計画

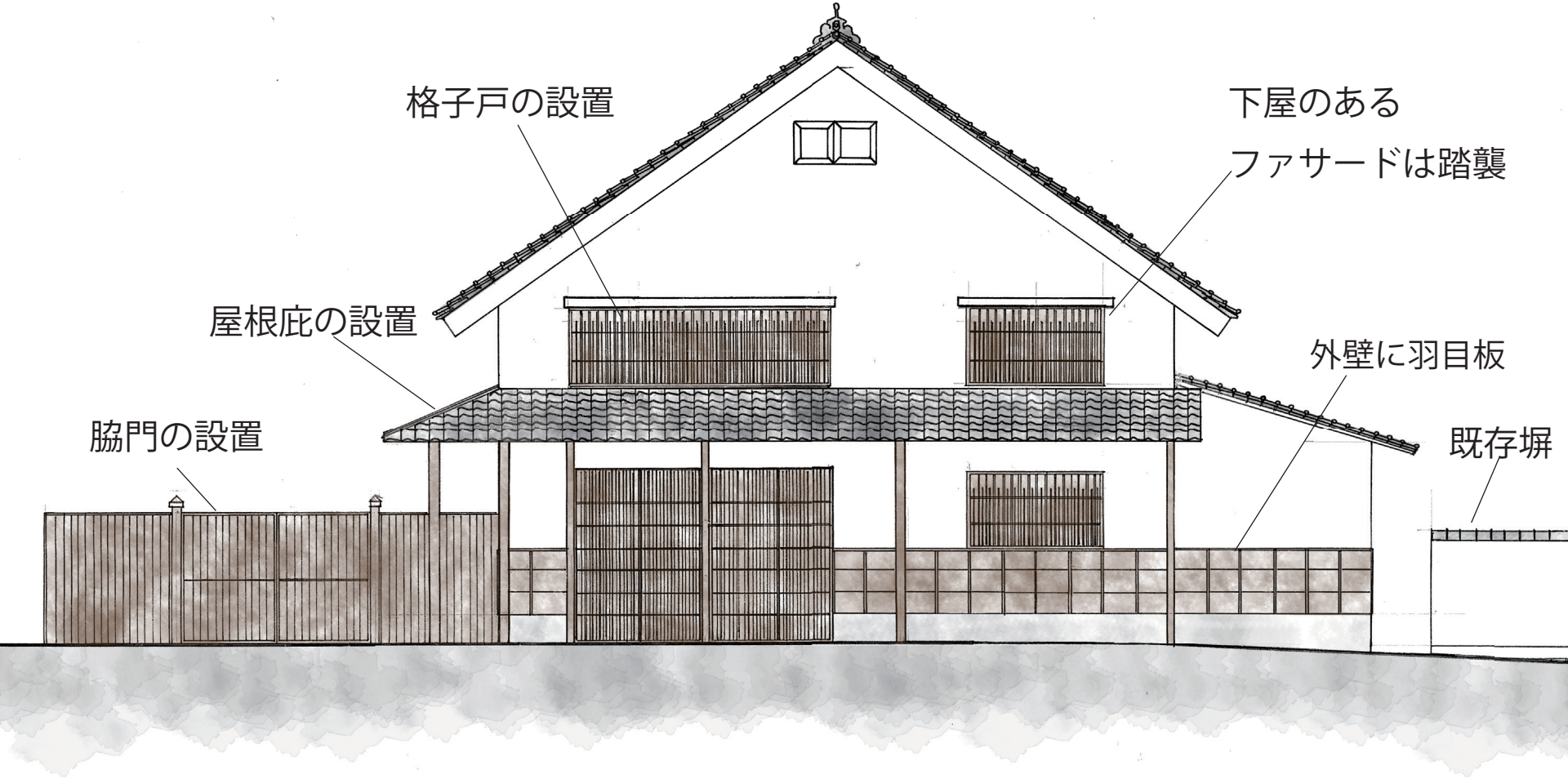


▽

この２つをもとに須坂のまちに馴染むファサードを計画

12. 須坂の町並みとの調和

東立面図



ご清聴ありがとうございました。